

RI会長年度を振り返って2 平和への願い

2012 - 13年度国際ロータリー会長 田中 作次

奉仕を通じて互いの違いに寛容になる

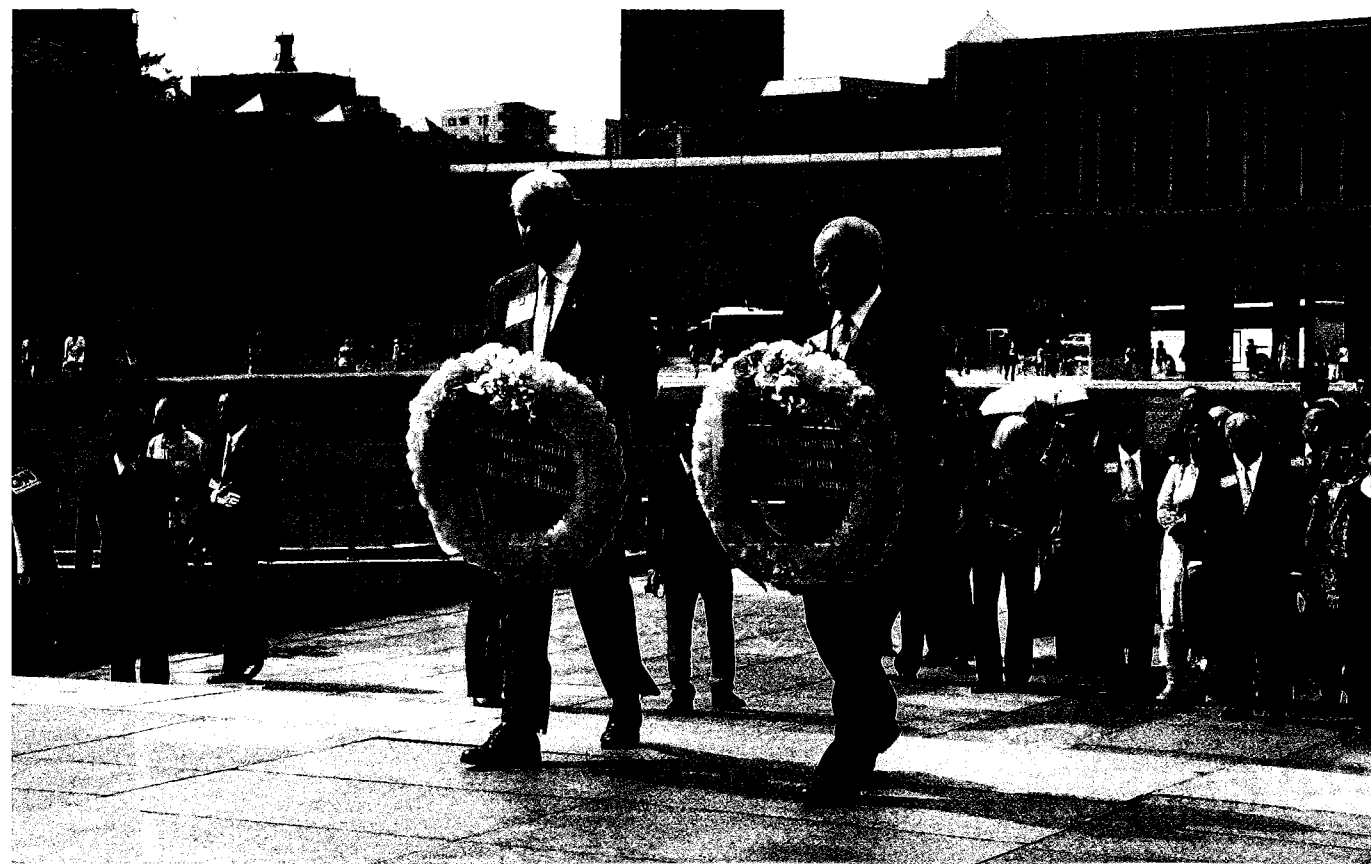
私の世代は、戦後に日本で育った最初の世代です。平和を重視するのは当然のことだと思います。自らの国の軍国主義の結末を経験した私たちの世代は、日本が平和を選ぶ大きな決断をした結果、目覚ましい経済発展を遂げていくのを目にしました。この決断があってこそ、日本は成長と繁栄を遂げることができたのです。そのおかげで、子どもたちの世代が安全な環境で成長し、教育を受け、暮らしを向上させることができました。また、この決断によってほかの国や文化に対する日本人の見方は根本的に変わり、日本人は心を開き、寛容になり、もっと深く世界を理解するようになりました。

さらに、平和を選択したことによって、私たちは前向きな目標に力を注ぐことができるようになりました。個人のニーズより社会のニーズを重視するのは、日本の文化と切り離せない、伝統的な価値観です。2011年3

月に起こった大地震と災害の後、数週間、数か月間、私たちが生き延び、復興に努力できたのも、この価値観があったからです。これは、日本以外の他の国々にとっても、良い教訓であると思います。

他者のニーズが、自分自身のニーズよりも大切だと思い、社会全体のための共通の目標に向かって力を合わせることができるようになれば、すべてが変わります。世界との関わり方が変わり、何を優先するのが変わります。そして、平和の概念をどのように理解するのが変わります。

ロータリーの中核にあるのは、奉仕の力に対する信念です。奉仕を優先することで、自分よりも他者のニーズが優先され、人々が抱える困難に対し、深い同情の心が生まれます。自分の時間やリソースを惜しみなく与え、新しい考え方に対してもさらに心を開くことができます。他人を変えようとするのではなく、すべての人やものから学ぶことがあると認識することです。



奉仕を通じて、私たちは、互いの違いに対して寛容になり、周囲の人に対して感謝の気持ちを抱くようになるでしょう。そして、もっと相手を理解し、あらゆる人の中に善を見いだすことができるでしょう。こうした理解から生まれる他者への尊重の気持ちが、平和な暮らしをもたらすのだと思います。

国際理解、親善、平和の推進は、ロータリー運動の礎いしずえです。世界における200以上の国や地域においてロータリーが活発に活動し、その存在感を示すことは、平和を築く世界的リーダーとしてのロータリーの存在を確立するためにも重要です。ロータリーは、その歴史の中で、これらの分野において多くの功績を残してきました。しかし、将来にも目を向け、ロータリーの未来と世界平和の進展が今日の若者たちにかかっていることを認識する必要があります。より良い世界を後世に残していくには、若者たちに意義ある活動に参加してもらい、将来に向けてロータリーの平和構築運動を続けていくための力を与えなければなりません。

平和について考える

2012-13年度、私は国際ロータリー会長として、以下の通り3回にわたって「ロータリー世界平和フォー

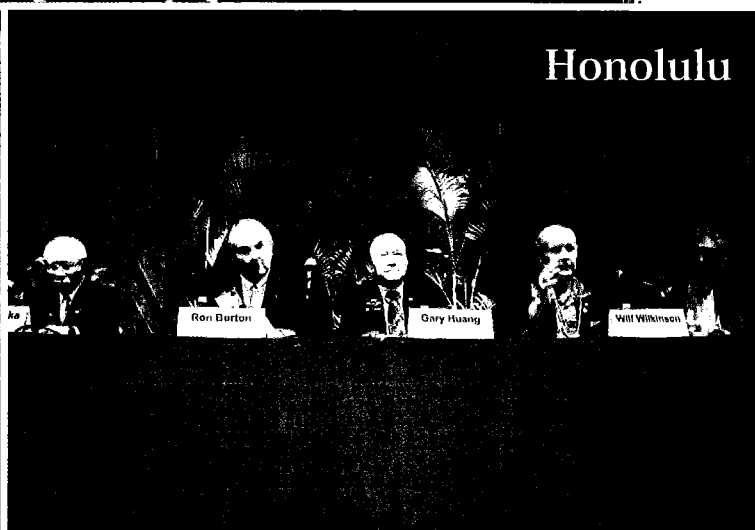
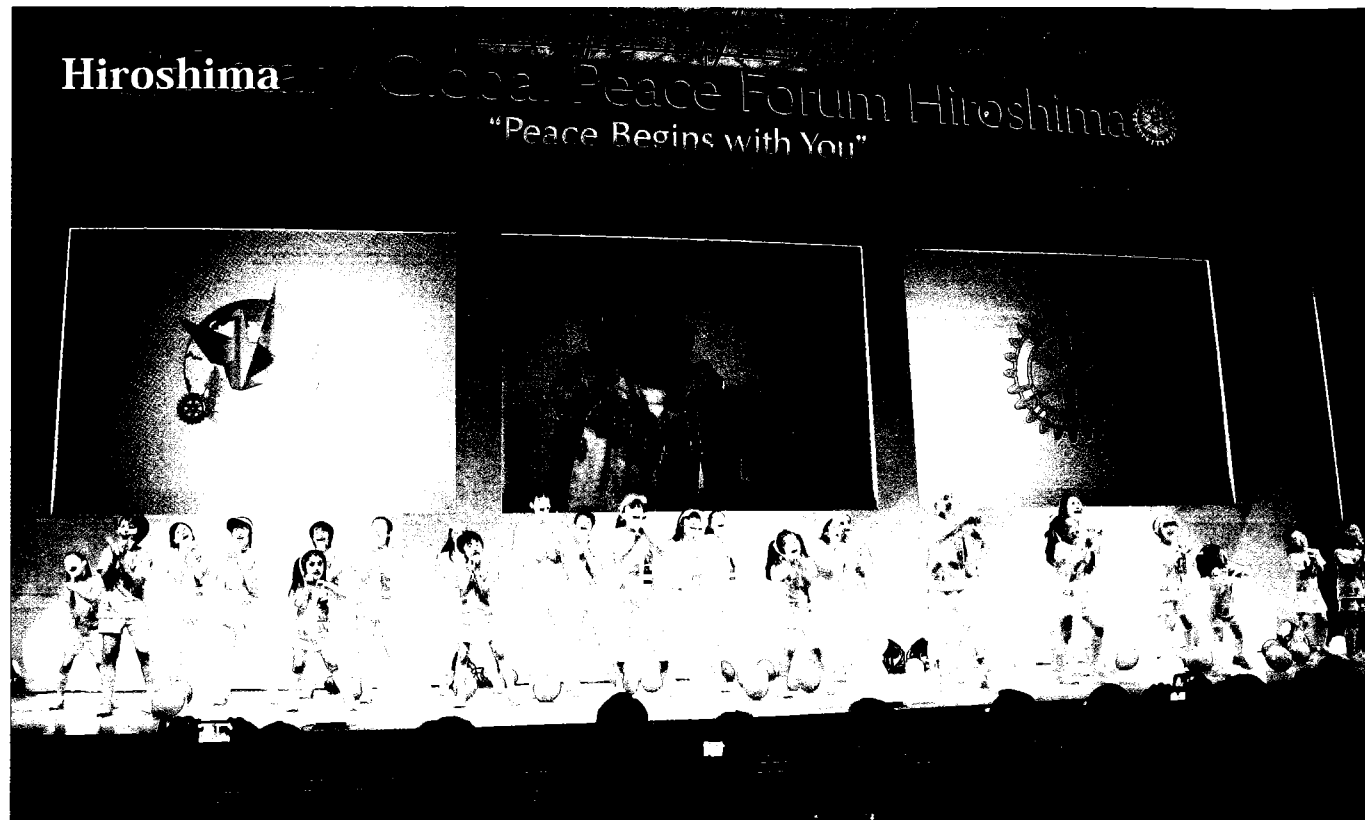
ラム」を開催させていただきました。それぞれ3回の各フォーラムでは、ロータリアンや地域のリーダーとともに平和への決意を固めました。

ベルリンでのフォーラムは「民主主義と自由」という価値をテーマとし、ホノルルと広島でのフォーラムは「若者」に焦点を当て、ローターアクター、インターアクター、青少年交換学生、ライラリアン、国際親善奨学生、ロータリー平和フェロー、財団学友、若きロータリアンのリーダーなど、新世代プログラムの参加者を交えて行われました。

世界の全地区から少なくとも2人の若者が出席できるよう、各地区に援助していただけることを強くお願いしました。また、相互に対話が可能な中継放送を通じて、遠隔地からフォーラムに参加できる機会も設けました。

ベルリン(ドイツ)においては「国境のない平和」をテーマに、2012年11月30日~12月2日、平和を築き、国際理解と協力において人々が相互に関わり合う機会を推進する上での民主主義の役割を考察し、国家間の理解を促進する上での国際共同委員会の功績と役割を紹介しました。

ホノルル(アメリカ・ハワイ州)では「平和にいたる緑の道」をテーマに、2013年1月25~27日平和の



前提条件として、人類が共有する環境資源の保存と保護、および自然災害の影響を緩和することの重要性に焦点を当て、新世代を中心に、若者たちによる平和のビジョンを育んでいくことについて討議しました。

最終回の広島（日本）では「平和はあなたから始まる」をテーマに、2,000人に近い参加者を得て2013年5月17～18日、私たち一人ひとりが日々の生活や地域社会での活動で平和を推進する方法を考察しました。未来志向のこの会議では、一人ひとりが今後どう貢献していけるかを、参加者に問いかけました。

自分の目で、ロータリーの活動を見たことで、ロータリーを頭で理解するだけでなく、心でも理解することができました。クラブと地区は、さまざまな方法によって地元で平和を推進することができます。以下の推奨活動の中にある活動を行い、平和をクラブと地区の奉仕活動の優先事項の一つとしていただければ幸いです。地区ガバナーは、地区大会での討論の主題として、平和を取り上げるよう奨励しました。そして2月23日、世界理解と平和の日（初のロータリークラブ会合の記念日）に合わせて平和活動を計画することの検討を以下の通り要請しました。

- ・平和に焦点を当て、紛争の仲裁と解決の機会について話し合う。
 - ・地域の少数派グループ（民族や宗教上の少数派など）をフォーラムに招き、新たな友情と協力関係を生み出す。
 - ・地元団体と協力して、地域における平和と紛争予防のための合同推進プロジェクトを実施する。
 - ・ローターアクター、インターアクター、青少年交換学生、RYLA参加者を招いてフォーラムを開き、毎日の生活の中で平和を推進するよう呼びかける。
 - ・非行による暴力やいじめなど、争いの原因に青少年が対処できるよう支援する方法を話し合い、アイデアを交換し合う。
 - ・地域に貢献している移民たちに対し、公に感謝の意を示す。
 - ・地域平和フォーラムを開催する。
- 地元自治体をはじめとする地域団体と協力し、公共イベントを企画し、世界理解と平和の推進におけるクラブの取り組みを象徴するようなイベントを開催します。都市の平和および安全な地域社会と学校に関連する問題についての討論会を開きます。
- ・国際姉妹クラブによる協力関係を結ぶ。

海外のロータリークラブと関係を結ぶことによって、世界理解と平和を推進します。双子クラブによる協力を通じて、政府や市民の緊張状態にある国家間の壁を取り去ります。既に他クラブと姉妹クラブの関係を結んでいる場合、2国間の平和的関係を推進するための合同プロジェクトを実施します。

- ・ロータリー平和フェローを推薦する。
- ロータリー平和センターに留学するロータリー平和フェローは、日々の生活やキャリア、奉仕活動を通じて、国家間または国際的な協力と平和を推進し、紛争解決に貢献する明日のリーダーとなる人々です。
- ・地域に存在するこうした問題に取り組むプロジェクトを計画し、国際プロジェクトで他国のクラブと協力する。
- 紛争や戦争の根底には、感染症、非識字、飢餓、貧困、天然資源の不足といった理由が潜んでいます。
- 私は、RI会長ノミニーに指名されて以来2年半にわたり世界のあちこちを訪問し、自分の目で、直接ロータリーの活動を見たことで、ロータリーを頭で理解するだけでなく、心でも理解することができました。

奉仕を通じて平和をもっと現実近づける

さて皆さまは、職業訓練プログラムを提供したり、子どもの遊び場を修理したり、ほかのクラブとの協力で水をくみ上げるポンプをアフリカに設置するなどの活動に参加していても、平和の構築に直接関連性はない、と思っているのではないのでしょうか。

実は、このような活動を実施することこそが平和構築につながるのです。なぜかと申しますと、戦争は、生活のために日々苦闘しなければならない環境で起こり、社

